

韓国語の進行表現、状態表現をめぐる対照研究方法論

—中国語・フランス語・日本語の視点から—

A Methodology for a Contrastive Study of Progressive Expressions and Stative Expressions in Korean

: From the Point of View of Chinese, French and Japanese

成戸 浩嗣 Koji NARUTO

(現代マネジメント学部)

抄 録

韓国語では、進行を表わす場合に

(1) 저는 지금 밥을 먹고 있습니다. / 私は今、ご飯を食べて**テイマス**。(浅井 2009:117)

のような“-고 있다”表現が、状態を表わす場合に

(2)a 어머니 옆에 아이가 앉아 있어요. / お母さんの横に子供が座っ**テイマス**。

(『東京外国語大学言語モジュール 朝鮮語 文法モジュール』)

(2)b 건물 입구에 경비원이 서 있다. / 建物の入口に警備員が立っ**テイル**。(同上)

のような“-아/어 있다”表現が用いられる。これらが表わすコトガラは、日本語では「**Vテイル**」表現によって表わされている。進行を表わすには“-고 있다”のほか、

(3) 철수가 지금 책을 읽는다. / チョルスが今、本を読ん**デイル**。

(『標準 韓国語文法辞典』“-고 있다”の項)

にみられるような“動詞の語幹+ㄴ다(는다)”、すなわち動詞の「現在形」が用いられることもある。(1)~(3)の対応例をみると、韓国語では、“-고 있다”、“-ㄴ다(는다)”のいずれかによって進行が、“-아/어 있다”によって状態が表わされているのに対し、日本語ではいずれも「**Vテイル**」が用いられている。これを日本語の側からみれば、「**Vテイル**」によって表わされるコトガラが韓国語では三つの形式によって表現し分けられるということになる。韓国語の3形式はそれぞれ固有の守備範囲を有するのであるが、言語現象の常として、複数の形式によって表現可能な領域が存在する。本稿は、“-고 있다”、“-아/어 있다”、“-ㄴ다(는다)”を用いた韓国語表現、「**Vテイル**」を用いた日本語表現を主たる考察対象とし、これらに相当する働きをもつ“在V”、“V着”、“呢”を用いた中国語表現、“être en train de+不定詞”、動詞の現在形を用いたフランス語表現などとも比較しながら、一つの言語をながめていたのでは気づかない視点から進行、状態に関わる日韓諸形式の働きについて考察するための着眼点、分析方法、予測される結論などを探ることを目的とする。

キーワード

進行 progress 状態 state テンス tense アスペクト aspect

意志性/動作性 volition/transitivity

目次

- 1 “-고 있다”の進行表現、“-아/어 있다”の状態表現
 - 1.1 “-고 있다”、“-아/어 있다”と「Vテイル」
 - 1.2 “-고 있다”、“-아/어 있다”と他動性の高低
 - 1.3 “-고 있다”、“-아/어 있다”が表わす移動動作
- 2 進行形式を用いない進行表現
 - 2.1 韓国語動詞の現在形と日本語の「Vテイル」
 - 2.2 中国語、フランス語の進行表現
- 3 意志性と動作性
 - 3.1 韓国語動詞、日本語動詞にみられる意志性
 - 3.2 “-고 있다”、“-아/어 있다”と動作・非動作
- 4 おわりに

1 “-고 있다”の進行表現、“-아/어 있다”の状態表現

1.1 “-고 있다”、“-아/어 있다”と「Vテイル」

“-고 있다”を用いた進行表現に日本語の「Vテイル」表現が対応するケースとしては(1)のほか、さらに以下のようなものが挙げられる。

- (4) 아줌마는 빨래를 하고 있습니다.
／おばさんは洗濯をしテイマス。
(『新装版 韓国語文法辞典』“-고 있다”の項)
- (5) 친구한테 보낼 편지를 쓰고 있어요.
／友達に送る手紙を書きテイマス。(同上)
- (6) 아이들이 밖에서 미끄럼을 타고 있다.
／子供たちが外で滑り台で滑っテイル。
(同上)
- (7) 아이들이 노래를 부르고 있습니다.
／子供たちが歌を歌っテイマス。
(『標準 韓国語文法辞典』“-고 있다”の項)

(1)、(4)～(7)は主体の意志による「動作」を、

- (8) 이곳은 비가 오고 있습니다.
／こちらは雨が降っテイマス。
(『옛센스 韓日辞典』“있다”の項)

は主体の意志によらない「現象」を表わしているという相違がみられるものの、両者は開始・終了が存在する(=時間的に有限である)点で共通しており、いずれも発話時において進行中のコトガラを表わし

ている。このような対応関係を有する表現の中には、

- (9) 그 사람은 일하고 있습니다.
／彼は仕事をしテイマス。(浅井 2009:117)
- (10) 한국어를 공부하고 있어요.
／韓国語を勉強しテイマス。
(石賢敬 2014:65)

のように、発話時に進行中のコトガラのほか、反復して行なわれる動作、習慣として行なわれる動作を表わすことも可能なケースがある¹⁾。

また、“-아/어 있다”を用いた状態表現に日本語の「Vテイル」表現が対応するケースとしては(2) a、(2) bのほか、さらに

- (11) 그는 밤샘 공부를 해서 매우 지쳐 있다.
／彼は徹夜して勉強したのでとても疲れテイル。
(『小学館 日韓辞典』「いる【居る】」の項)
- (12) 개가 바닥에 누워 있습니다.
／犬が床に横になっテイマス。
(『東京外国語大学言語モジュール 朝鮮語文法モジュール』)
- (13) 철수는 집에 가 있다.
／チョルスは家に帰っテイル。
(『標準 韓国語文法事典』“-았-”の項)
- (14) 쓰레기가 많이 남아 있습니다.
／ゴミがたくさん残っテイマス。
(『東京外国語大学言語モジュール 朝鮮語文法モジュール』)
- (15) 자전거가 쓰러져 있다.

／自転車が倒れ**テイル**。
(イム・ジョンデ 2004:70)

(16) 이 시계는 삼일 전부터 멈춰 **있어요**.

／この時計は三日前から止ま**っテイマス**。
(生越 1995:192)

のようなものが挙げられ、いずれも動詞が表わす動作(or 現象)が終了した後に残った状態を表わしている²⁾。

一方、日本語の「V**テイル**」には「進行」、「状態」を表わす働きがあり、

(17) 彼はいま歯をみが**いテイル**。(進行)

(18) あの人は**素敵**な眼鏡をかけ**テイル**。(状態)

のような他動詞表現や

(19) 鯉が**元気**に泳**いデイル**。(進行)

(20) 池の水が**うっすらと凍**っテイル****。(状態)

のような自動詞表現がその典型例であろう³⁾。このような相違は、組み合わされる動詞が「継続動詞」、「瞬間動詞」のいずれであるか、あるいは『日本語文法事典(「動詞²⁾」の項』の記述にみられるように、「主体の運動の継続」を意味する「動作動詞」、「主体の変化の結果の継続」を意味する「変化動詞」のいずれであるかによって生じるのであるが、進行、状態のいずれにも解される

(21) 花子さんは着物を着**テイル**。

(成戸 2009:297)

(22) 雪が積も**っテイル**。

のようなケースも存在する⁴⁾。(21)、(22)は、例えば

(21)' 花子さんは**とりの部屋**で着物を着**テイル**。
(進行) (成戸 2009:297)

(21)" 花子さんは**素敵**な着物を着**テイル**。(状態)

(22)' 雪が**どんどん**(降り)積も**っテイル**。(進行)

(22)" 雪が**2メートルほど**積も**っテイル**。(状態)

のような形であれば進行、状態のいずれかに確定され、「**トコロダ**」を加えて

(23) a 花子さんは着物を着**テイルトコロダ**。

(成戸 2009:309)

(23) b 雪が積も**っテイルトコロダ**。

とすれば進行の意味に限定されることとなる⁵⁾。

日韓両言語の進行表現、状態表現には前掲のような対応関係がみられるため、日本語話者に対する韓国語教育の場では、進行を表わす場合には“-고 있다”が、状態を表わす場合には“-아/어 있다”が用いられるという説明を最初に行なうことがある⁶⁾。初学者にとっては簡潔でわかりやすい説明であり、この段階では

・“-고 있다”は「V**テイル(トコロダ)**」と同じく進行を、“-아/어 있다”は「V**テイル**」と同じく状態を表わす

と覚えておくのもよいであろう。しかしながら、学習がすすむにつれ、“-고 있다”が状態を表わすケースも登場してくるようになる。例えば、『標準 韓国語文法辞典(“-고 있다”の項)』が

(24) 저는 지금 양복을 입고 **있어요**.

／私は今、背広を着**テイマス**。

(『標準 韓国語辞典』“-고 있다”の項)

(25) 안경을 벗고 **있으니까** 아무것도 안 보이네요.

／眼鏡を外し**テイル**から、何も見えませんね。(同上)

について、(24)の韓国語表現は進行、状態のいずれを表わすことも可能であるのに対し(25)のそれは状態を表わすにとどまるとしているようなケースがそれにあたる。このため、上記のような説明だけでは、学習者が“-고 있다”、“-아/어 있다”の用法について十分に理解するにはいたらないであろう⁷⁾。

1.2 “-고 있다”、“-아/어 있다”と他動性の高低

1.1で紹介した“-고 있다”、“-아/어 있다”の使い分けについての説明の不備を補うのが、NHK2004年6月:53、55、57における以下のような説明である。

① “-고 있다”で「進行」、「状態」を表わす

- ・動作の進行を表わす用法 (= 「～**テイル**／～**ツツアル**」)

ex. “**팔고 있다**／**売っテイル**”

“**기다리고 있다**／**待っテイル**”

“**마시고 있다**／**飲んデイル**”

※反復して行なわれる動作も “-고 있다”

(ex. “**가르치고 있어요**／**教えテイマス**”)

- ・動作の終了後の状態を表わす用法

ex. “**타고 있다**／**乗っテイル**”

② 自動詞の場合には

- ・“-고 있다” は動作の進行を表わす

ex. “**오고 있다**／**来ツツアル**”

- ・“-φ 있다” によって動作の終了後の状態を表わす ※ “-φ 있다” = “-아/어 있다” (筆者注)

ex. “**와 있다**／**来テイル**”、“**서 있다**／**立っテイル**”、“**앉아 있다**／**座っテイル**”

上記①においては、“**타고 있다**” が他動詞 “타다” を用いた例として挙げられている。“타다” に対応する「乗る」は日本語文法では自動詞とされるのに対し、“타다” は “~**를(을)** 타다”、“~**에** 타다” という二通りの形式で用いられるため、他動詞、自動詞いずれの性格をも備えているように見受けられる⁸⁾。一方、上記②においては、“-고 있다” が進行を、“-아/어 있다” が状態を表わす(NHK2005年1月:29では「ある動作が完了し、その完了した状態が継続していること」を表わす)という明確な使い分けがあるとされている。しかし、このような説明によっても、“-고 있다” が表わす「状態」と“-아/어 있다” が表わす「状態」の相違について十分に理解されるとは言い難く、学習者には疑問が残る。同じく「状態」を表わすとはいっても、“-고 있다”、“-아/어 있다” という形式上の相違がみられるということは、そこに断絶が存在する(用法上の連続性がない)と考えるのが自然であろう⁹⁾。このことは、『標準 韓国語文法辞典(“-아 있다”の項)』が、“-고 있다”には「目的語を必要とする動詞」、「目的語を必要としない動詞」のいずれを用いることも可能であるのに対し、“-아/어 있다”の場合は「目的語を必要としない動詞」に限定されるという点を前面に出した説明をしていることに通じるように見受けられ、両形式の主要な相違は、「進行」、「状態」のいずれを表わすかよりは、目的語を必要とする動詞が用いられるか否か(=いわゆる二項述語が用いられるか否か)にあるの

ではなからうか。「状態」を表わす“-고 있다”表現を“-아/어 있다”表現と比較した場合、目的語をとらない動詞に限定して用いられる後者よりは、前者の方が「他動性」が高いということが出来る。このことは、前者の場合にはコトガラへの関与者が主体、客体の二つであり、「進行(時間的に有限であり、意志的なものが多い)」を表わすことも可能であるのに対し、後者の場合にはコトガラへの関与者が一つであり、非時間有限的で非意志的な「状態」を表わすにとどまる点によっても理解できようし¹⁰⁾、『韓国語文法 語尾・助詞辞典(“-고 있다”の項)』が、“-고 있다”は目的語のある文に、“-아 있다”は目的語のない文に用いられるとして

(26) **버스를 타고 있다.** (バスに乗っている。)

(『韓国語文法 語尾・助詞辞典』“-고 있다”の項)

(27) **버스에 앉아 있다/서 있다.**

(バスに座っている/立っている。)(同上)

を挙げ、(26)は「バスに乗った結果、その状態が持続すること」を、(27)は「バスに坐った状態/立った状態であること」を表わすとしていることとも矛盾しない。(26)においては“**버스를 타다**”、(27)においては“**버스에 앉다/서다**”のように異なる助詞が用いられており、目的格を表わす“**를**”を用いた前者の方が他動性においてまさっているのは明白である。ちなみに、NHK2004年6月:53に、“타고 있다”は「乗りつつある」ではなく「乗った」状態を表わす一方で、(“타다”のような)一部の動詞では動作の終わった状態を表わすのに“-고 있다”が用いられ、文の主語と目的語が動作の結果結びつくような動詞では「状態」の意味になることが多い旨の記述がみられるのは、“**를**”を用いたケースについて述べているのである。これらのことから、(26)は動作の延長線上にある状態を表わしているのに対し、(27)は発話時の状態そのものを表わしているということができ、このような相違は“**버스**”に付加されている助詞“**를**”、“**에**”の使い分けとも密接な関わりを有するとみられる¹¹⁾。(27)のような“-아/어 있다”表現の他動性が“-고 있다”表現よりも低いことは、

(28) **기둥이 많이 서 있다.**

(柱がたくさん立っている。)

(イム・ジョンデ 2004:70)

のようなケースをみれば一層わかりやすい。(28)においては無情物が主体となっており、状態が生じる原因としての動作は想定されない。

また、イム・ジョンデ 2004:70 に挙げられている“살다(住む、暮らす、生きる)”を用いた以下のような対応例も、両形式の相違について考えるためのヒントになると思われる。

- (29) a 아직 살고 있습니다.
／まだ住ん**デ**イマス。
(イム・ジョンデ 2004:70)
- (29) b 아직 살아 있습니다.
／まだ生き**テ**イマス。(同上)

(29) a は「住んでいる状況の継続(動き・状況の継続)」の例として、(29) b は「生きている状態の継続(状態の継続)」の例として挙げられているのであるが¹²⁾、前者は(表現には含まれていない)主体の意志によることが明白であるため「動作」の側に属するのに対し、後者は

- (30) 길가에 사람이 많이 죽어 있습니다.
／道ばたに人がたくさん死ん**デ**イマス。
(生越 1995:187、192)

の場合と同様に主体の意志によるものではないため「非動作」の側に属するという相違がみられ、このことは

- (31) 살았는지 죽었는지 소식이 없다.
／生き**テ**イルのか死ん**デ**イルのか消息がない。(前田 1982:67)

のような対応例をみれば理解しやすい。これを動詞の側からみれば、“살다”は“-고 있다”、“-아/어 있다”のいずれと組み合わせられるかによってその語義が特定されるということとなり、生越 1995:189 が、“-고 있다”は多くの場合「動作の継続」を表わすとしていることとも符合する。“살다”とは異なり、“쓰다(書く)”の場合には、語義の特定とまではいかないものの、

- (6) 친구한테 보낼 편지를 쓰고 있다.
(友だちに送る手紙を書いています。)
- (32) 책 뒤에 이름이 써 있다.

(本の後に名前が書いてある。)

(『東京外国語大学言語モジュール 朝鮮語 文法モジュール』)

における“쓰고 있다(書いている)”、“써 있다(書いてある)”のように、進行、状態が表現し分けられる。また、無情物について述べた

- (33) a 꽃이 시들고 있어요.
／花がしおれ**テ**イマス。(石賢敬 2014:66)
- (33) b 꽃이 시들어 있어요.
／花がしおれ**テ**イマス。(同上)

の場合には、「動作」、「非動作」という区別はあてはまらないものの、石賢敬 2014:66 が、(33) a は「しおれることが現在も進行中である」ことを表わすのに対し、(33) b は「しおれている」という状態を表わすとしているように、進行形式“-고 있다”と状態形式“-아/어 있다”の使い分けがなされている点では同様である。

ところで、“-아/어 있다”をとる(2)a、(2)bの韓国語表現と

- (34) 아름다운 꽃이 피어 있다.
／美しい花が咲い**テ**イル。
(『옛센스 韓日辞典』“있다”の項)
- (35) 가방 안에 책과 지갑이 들어 있습니다.
／かばんの中に、本と財布が入**テ**イマス。
(『標準 韓国語文法辞典』“-아 있다”の項)

のそれを比較すると、有情物を主体とする前者が表わすコトガラは、主体の意志によるものであるため「動作」の側に含まれるのに対し、無情物を主体とする後者が表わすコトガラは((14)~(16)、(28)の場合と同じく)「非動作」の側に含まれるという相違がみられる。このことは換言すれば、前者は主体がその意志によって「座っている」、「立っている」状態を維持しているというコトガラを表わすのに対し、後者はそうではないということであり、同じく“-아/어 있다”形式をとる表現であっても他動性の高低の差異が存在することがみてとれよう。

1.3 “-고 있다”、“-아/어 있다”が表わす移動動作

“-고 있다”、“-아/어 있다”が“오다(来る)”、“가다(行く)”のような移動動詞と組み合わせられた場合には、両形式の使い分けや日本語「Vテイル」との対応関係の相違がより鮮明な形であられる。このことは、1.2で紹介した②における“오고 있다/来ツツアル”、“와 있다/来テイル”のような対応例や、

- (36) 그는 오오사카에 오고 있다.
(前田 1982:74)

は「出発点と大阪の間を移動中である」ことを表わすのに対し、

- (37) 그는 오오사카에 와 있다. (同上)

は「大阪に到着した状態にある」ことを表わすという前田 1982:74 の記述にも示されており、日本語を学ぶ韓国語話者が「Vテイル」の用法を正しく理解するための注意点がみてとれる。「来テイル」は「すでに(or もう)来ている」の意味であって、「来る途中である」の意味にはならないため、

- (38) 손님이 와 있어요.
/お客さんが来テイマス。(石賢敬 2014:65)

のように“-아/어 있다”表現との対応関係が成立するととどまる。“오고 있다/来ツツアル”、“와 있다/来テイル”の対応関係にみられるこのような相違は、“가고 있다/行きツツアル”、“가 있다/行っテイル”についてもあてはまり、

- (39) a 서울에 가고 있다.
(ソウルに行く途中である)
(39) b 서울에 가 있다.
(ソウルに行ってそこにいる)
(石賢敬 2014:64、梅田・村崎 1982 a :51 を一部修正)

のようなケースや、

- (40) a 철수가 집에 가고 있다.
/チョルスが家に向かっテイル。

- (40) b 철수가 집에 가 있다.
/チョルスが家に行っテイル(すでに家にいる)。
(『標準 韓国語文法辞典』“-아 있다”の項)

のような対応例がみられる。(40) a の日本語表現には「Vテイル」が用いられているものの、「行く」ではなく「向かう」が用いられている。但し、同じく移動動詞を用いた表現であっても、反復して行なわれる動作、すなわち「断続的に繰り返し行なわれる動作」を表わす場合には

- (41) 매주 서울에 가고 있어요.
/毎週ソウルに行っテイマス。
(石賢敬 2014:65)

のように“-고 있다”と「Vテイル」の対応関係が成立することとなる。このように、日本語においては、過程が問題とならない「行く/来る」のような移動動詞(非継続動詞)が「-テイル」と組み合わせられた場合には進行を表わすことができないのに対し、韓国語では“가다/오다”が“-고 있다”、“-아/어 있다”と組み合わせられて進行、状態が区別されるのである。“-고 있다”は、組み合わせられる動詞の表わす動作が継続可能なものであるか否かにかかわらず用いられる点において「-テイル」とは大きく異なるのである¹³⁾。

“-고 있다”、“-아/어 있다”のいずれとも組み合わせられる動詞としては、“쓰다(書く)”、“말다(受け取る、預かる)”のような他動詞のほか、“가다(行く)”、“오다(来る)”、“살다(住む、暮らす、生きる)”のような自動詞が存在するが、自動詞であっても“앉다(座る)”、“서다(立つ)”、“피다(咲く)”などは“-고 있다”と組み合わせられない。これは、NHK2004年6月:55の記述にみられるように、“서고 있다”、“앉고 있다”は「立ちツツアル」、「座りツツアル」の意味になるものの、そのような状況が通常は想定しにくいことによると考えられ、このことは“피다”についても同様である¹⁴⁾。このため、自動詞と“-고 있다”、“-아/어 있다”の組み合わせの可否については、より詳細な分析を行なう余地がありそうである。

前述したように、“가다”、“오다”のような移動動詞は“-고 있다”、“-아/어 있다”のいずれとも組み合わせられるため、韓国語話者が

(42) 主人は家に帰って**テイマス**。

という日本語表現に接した場合に、“-고 있다”の発想から「主人はまだ家に着いていない」と解釈してしまう可能性がある。これは、英語話者が

(43) He/She **is coming**. (水谷 1985:103)

(44) He **is coming** home. (同:104)

の発想から日本語の「来**テイマス**」、「帰って**テイマス**」を「来る途中」、「帰る途中」の意味に解釈するという、水谷 1985:103-104 で紹介されているケースと同様の現象であり¹⁵⁾、外国語話者が日本語の「V**テイル**」に接した場合にしばしばみられる母語の干渉である。このような誤った解釈の可能性は、例えば「もう」が含まれた

(45) 아버지는 벌써 집에 들어 **오셨다**.

／父はもう帰宅し**テイル**。

(『小学館 日韓辞典』「いる【居る】」の項)

のようなケースの場合には低くなるが、そのような成分が含まれない場合には高くなる。「V**テイル**」の解釈における母語の干渉の可能性は、金京愛・鄭賢珠 2015:72 の『『歩いている』という進行状態 (be walking) と『壊れている』という状態変化の結果 (be broken) が日本語ではなぜ同じ『-ている』で表されるのでしょうか』という問題提起に象徴的に示されている。このように、移動動詞を含む自動詞を用いた進行表現、状態表現をめぐる日韓両言語の相違は、日本語を学ぶ韓国語話者が誤用を引き起こしやすい部分なのであるが、同様のことは他動詞表現である

(46) 그는 지금 창문을 열고 **있다**.

／彼は今窓を開け**テイル**。(前田 1982:69)

(47) *그는 이미 창문을 열어 **있다**.

／彼は既に窓を開け**テイル**。(同上)

のようなケースについてもあてはまる。韓国語話者が(46)の日本語進行表現に接した場合には、“-고 있다”を用いた韓国語進行表現に置き換えても問題がないのに対し、(47)の日本語状態表現に接した場合には、目的語をとらない動詞と組み合わせられる形式である“-아/어 있다”を用いることはできないため(過去を表わす“열었다”であれば許容される)、

“-고 있다”が表わす進行の発想に引きずられて誤った解釈をしてしまう、もしくは意味を理解しかねることがあるのではなかろうか。

2 進行形式を用いない進行表現

2.1 韓国語動詞の現在形と日本語の「Vテイル」

冒頭で述べたように、韓国語には、進行を表わすのに“-고 있다”を用いるほか、動詞の「現在形」すなわち“動詞の語幹+다(는다)”形式を用いる方法があり、日本語の「V**テイル**」表現との間に対応関係が成立する(3)のようなケースがみられる。同様の例としては、

(48) 방에서 지금 축구를 **본다**.

／部屋で今サッカーを見**テイル**。

(イム・ジョンデ 2004:50)

(49) 아기는 엄마가 책을 읽어 주기를

기다린다.

／子供はお母さんが本を読んでもくれるのを、待**テイル**。

(『新装版 韓国語文法辞典』“-아/어/여”の項)

が挙げられる。生越 1995:189 の記述にみられるように、“-고 있다”は“-아/어/여 있다”¹⁶⁾と同じくアスペクト形式であるのに対し、韓国語動詞の現在形はテンス形式であるとされる。動詞の現在形と“-고 있다”形式の間にはいかなる使い分けがなされているのであろうか。この点については、浅井 2009:116 に、韓国語では現在形を用いて進行を表わすことができる一方、日本語の「-**テイル**(トコロ)」ほど頻繁には使わないながらも、動作が進行している状況にあることを特に強調して示したいときには“動詞の語幹+고 있다”形式を用いる旨の記述がみられる¹⁷⁾。浅井の記述によれば、“-고 있다”形式が用いられるのは、進行中であることをとりたてて述べようとする表現意図がある場合であって、それが無い場合には動詞の現在形が用いられることとなる。このような表現意図がある場合の例として『東京外国語大学言語モジュール 朝鮮語 文法モジュール』は

(50) 인터넷만 하지 말고 공부 **좀**해요.

— 나는 매일 공부하고 **있어요**.

(インターネットばかりやらないで勉強しなさいよ。 — ぼくは毎日勉強していますよ。)

(『東京外国語大学言語モジュール 朝鮮語 文法モジュール』)

(51) 사토 씨는 어디에 있어요?

— 저 나무 밑에서 친구하고 이야기하고 있어요.

(佐藤さんはどこにいますか。 — あの木の
下で友だちと話しています。) (同上)

を挙げ、進行中であることが聞き手に不明な時には“-고 있다”を用いてその情報を伝えるとしている。

また、“-다(는다)”と同様に、“-다니다(습니다)”を用いて進行を表わすことも可能である。イム・ジョンデ 2004:52 は、動詞の丁寧継続形である“動詞+다니다(습니다)”は「今継続している最中の出来事を表す時」に用いられるとして

(52) 지금 공부합니다. /今勉強しテイマス。

(イム・ジョンデ 2004:52)

などの表現例を挙げている。“지금(今)”が発話時を指すことは言うまでもないが、このような成分を含まない

(53) 진수가 창밖을 내다봅니다.

/チンスが窓の外を見テイマス。

(『新装版 韓国語文法辞典』:5)

であっても表現の前提となるコトガラが発話時において進行中であれば、“動詞の語幹+다니다(습니다)”形式で進行を表わすことができる¹⁸⁾。但し、イム・ジョンデ 2004:50-51、浅井 2009:58 に、“-다(는다)”は「断定」を、“-다니다(습니다)”は「丁寧な断定」を表わす働きを有する形式であり、進行専用の形式というわけではない旨の記述がみられることや、『新装版 韓国語文法辞典』:5-6 が、現在時制で表わされるケースとして「動作動詞の場合:現在の動作の進行を表す」、「状態動詞と이다動詞の場合:事物の現在の状態を表す」、「時間を超越した一般的な真理や習慣を表す場合」などを挙げていることから、進行を表わす働きは上記の形式がもつ働きの一部であるにすぎず、「発話時に動作が進行している最中である」

場合には進行の意味になるということがみてとれる。これらのうち、「時間を超越した一般的な真理や習慣を表す場合」の例として挙げられている

(54) 설날에는 세배를 합니다.

/正月には新年の挨拶をシマス。

(『新装版 韓国語文法辞典』:6)

においては動詞の終止形を用いた日本語表現が対応しているのに対し、「現在の習慣」を表わす例として『小学館 日韓辞典(「いる【居る】」の項)』に収録されている

(55) 아버지는 매일 전철로 회사에 다니십니다.

/父は毎日電車で会社に通っテイマス。

(『小学館 日韓辞典』「いる【居る】」の項)

においては「Vテイル」表現が対応している。ちなみに、日本語動詞の終止形は辞書形と同じである点で、韓国語の“動詞の語幹+다(는다)”、“動詞の語幹+다니다(습니다)”が辞書形(基本形=動詞の語幹+다)とは別個に存在するのとは異なる。(55)は、『新装版 韓国語文法辞典』が「現在の動作の進行を表す」例として挙げている

(56) 큰 아이는 유치원에 다닙니까?

/上の子は幼稚園に通っテイマスか?

(『新装版 韓国語文法辞典』:5)

などと同じタイプである。(54)と(55)、(56)との相違は、前者が「社会全般における普遍的な習慣(=慣習)」を表わしているのに対し、後者は「個人の習慣」を表わしている点にある。「個人の習慣」は「断続的に繰り返し行なわれる動作」と言い換えられる¹⁹⁾。“-다(는다)”、“-다니다(습니다)”が進行専用の形式でないながらも進行中の動作を表わせることは、石賢敬 2014:61-62 が「現在時制」について「事件時と発話時が一致する時制」であるとして

(57) 아이들이 지금 운동장에서 야구를 한다.

/子どもたちが今グラウンドで野球をスル。

(石賢敬 2014:62)

のような非進行表現を挙げていることや、梅田・村崎 1982 a :44 が“動詞の語幹+다(는다)”につい

て「現在起こっている行動または話者が現在あるいはこれから起こると確信する行動を表す。個別的、一般的、反復的、習慣的行動の別なく使われる。時間的に瞬間であるか継続であるかも問わない」としていることにも示されている²⁰⁾。ついでながら、現在形を用いて「断続的に繰り返し行なわれる動作」を表わす(55)、(56)のようなケースについては、(41)、(50)や

(46) ' 그는 언제나 창문을 열고 있다.

／彼はいつも窓を開けテイル。

(前田 1982:69)

のような“-고 있다”表現との使い分けが問題となり、それは「発話時のコトガラを述べる」、「進行中であることをとりたてて述べる」という両形式の基本的相違に帰結すると推察されるが、この点については詳細な分析を行なう必要がある。

前述したように、“-고 있다”は進行中であることをとりたてて述べる場合に用いられる形式であり、そのような表現意図がない場合には現在形が用いられるため、同一の客観的事実を前提として二つの表現が成立する以下のようなケースもみられる。

(3) 철수가 지금 책을 읽는다.

／チョルスが今、本を読んデイル。

(3)' 철수가 지금 책을 읽고 있다.

／チョルスが今、本を読んデイル。

(『標準 韓国語文法辞典』“-고있다”の項)

但し、同じく“지금(今)”を含んではいても、

(58) 어머니, 지금 뭐 하세요?

— 좀 출출해서 밥참 먹는다.

／お母さん、今、何しテルんですか？

— ちょっとおなかがすいて、夜食を食べテイルよ。(同“-는다”の項)

の場合に現在形が用いられているのは、進行中であることよりも「何(を)」の部分に比重が置かれているためであると推察される。このことは、

(59) 지금 뭐 해요?

— 뭘 할까 생각하고 있어요.

／いま何しテイマスか。何をしようか考え

テイマス。(NHK2005年1月:28)

のように、“-고 있다”を用いない表現による問いかけに対して同形式を用いて答えることや、

(60) 무슨 생각하고 있니? /何を考えテイルの
(『小学館 日韓辞典』「いる【居る】」の項)

のように、問いかけの表現における“-고 있다”の使用を排除するものではなく、進行中であることをとりたてて表現意図がありさえすれば同形式の使用は許容される。(59)の問いかけは、イム・ジョンデ 2004:326が『『뭐 해?』は、『지금』と一緒に使われると、『何をするの?』ではなく、『何をしているの?』の意味になりやすい』としていることにも示されているように、発話時についてたずねることによって進行の意味となっているのに対し、返答では進行中であることをとりたてて“-고 있다”が用いられている。一方、同:327には、

(61) 어디 살아? (イム・ジョンデ 2004:327)

という質問に“~에 살고 있어”で答えることがあまりないのは、“살다”自体に「生きる、住む、暮らす」などの動きが続いているという意味が含まれているためであるが、

(62) 그 사람 소식 못 들었어?

— 그 분 일본에 살고 있대요.

(あの人の消息、聞いていない? — その方、日本で暮らしているらしいですよ。)

(同上)

の場合は『『今』日本で暮らしているらしいです』ということ言いたい文なので“-고 있다”が用いられる旨の記述がみられ、現在形と“-고 있다”が、動詞の語義や話者の表現意図などの微妙なバランスの上に使い分けられていることがみてとれよう。

2.2 中国語、フランス語の進行表現

現在形を用いた韓国語進行表現は、発話時であることを明示する“呢”を用いた中国語進行表現との間に共通点・相似点を有する。このことは、陳淑梅 1997:27-28が

- (63) 今、何をし**テイマス**か。
 — 餃子を作っ**テイマス**。
 (陳淑梅 1997:27-28)

に対して

- (64) 你做什么**呢**? — 我包饺子**呢**。(同:28)

を対応させていることにもあらわれている。(63)が表わすコトガラは進行形式“在V”を用いて表現することも可能であり、

- (64)' 你在做什么? — 我在包饺子。(同上)

のような表現が成立するほか、“在V”と“呢”が共起した

- (64)" 你在做什么**呢**? — 我在包饺子**呢**。(同上)

も成立する。“在V”について藤堂・相原 1985:76 は、「(主体が)どういう種類の動作・行為をしているのかを、話し手が認定・判断し、それを説明する」形式であるため、

- (65) 彼は何をし**テイル**の。(藤堂・相原 1985:76)

という疑問文では

- (65)' 他在干什么**呢**? (同上)

がふさわしいとしており、この点だけをみれば、現在形を用いた韓国語表現の(58)についての前述の解釈(進行形式を用いないケースにおいては「何(を)」が問題とされ、「進行中であること」にはそれほど比重が置かれない)とは相容れないように見える。しかし、藤堂・相原の記述は、中国語における持続形式“V着”との比較においてなされたものである。同:77 が、“V着”は「何をしているか」という動作の種類ではなく「どんなふうになっているか」というVのすがた(相)に関心を向けた言い方であるとしていることは、“在V”が「何をしているか」に比重を置いた形式であることを暗示しているようにもみえるのであるが、“呢”を用いた進行表現と比較した場合にも同様のことがあてはまるとは限らない。むしろ、進行に関しては無標である“呢”を用いた表現の方が、

有標である“在V”表現よりも「何を」の部分に比重がかかりやすいと推察される。このことは、イム・ジョンデ 2004:326 に、

- (66) 지금 뭐 해? — 밥하고 **있어요**.
 (今何やっている? — ご飯の支度をしています。)(イム・ジョンデ 2004:326)

における“밥하고 있어요”は「ちょうど今ご飯の支度をしているところなのだ」という意識が強く働く時に使う言い方であるのに対し、“밥해요”を用いた場合には「ちょうど今」という意識はなく、「今自分がやっていることは、ご飯を作ることだ」という意味になる旨の記述がみられることにも通じる。

前述したように、韓国語においては、進行を表わす場合に“-고 있다”のような進行形式を用いるか、“-다(는다)”、“-다(습니다)”のような非進行形式を用いるかを話者が選択できるのであり、この点において「Vテイル」、「Vツツアル」のような進行形式を用いることが義務的である日本語とは大きく異なっている²¹⁾。韓国語の“-고 있다”にみられるこのような特徴は、中国語やフランス語の進行形式、すなわち“在V”や“être en train de+不定詞”についてもあてはまり、いずれも進行中であることをとりたてて述べる場合に用いられるアスペクト形式である。これらの形式に用いられる“있다”、“在”、“être”は日本語の「イル」と同じく存在を表わす動詞としても働く成分であることから、3形式とも進行の意味を表わすにいたる発想の点で共通しているということができよう²²⁾。いずれも使用するか否かが話者の判断にゆだねられているため²³⁾、中国語、フランス語の場合も進行形式を用いる表現、用いない表現がともに成立する以下のようなケースがみられる。

- (67) 她洗澡**呢**。
 (彼女はシャワーを浴びている。)
- (67)' 她在洗澡。
 (彼女はシャワーを浴びている。)
- (68) Elle **prend** sa douche.
 (彼女はシャワーを浴びている。)
 (成戸 2014:324、藤田・清藤 2002:86 を一部修正)
- (68)' Elle **est en train de** prendre sa

douche. (彼女はシャワーを浴びている。)
(同上)

(67)の“呢”は、前述したように、発話時であることを明示する働きをもっている。すなわち、“呢”を用いなければ進行・非進行のいずれにも解されるのに対し、“呢”を用いると進行の意味に傾く²⁴⁾。一方、成戸 2014:390-392、394-395 で述べたように、現在形を用いた(68)のようなフランス語表現は「長期にわたって断続的に行なわれる動作(習慣など)」を表わすことも可能であるのに対し、“être en train de+不定詞”を用いた(68)’のような表現は「発話時に動作が行なわれていること」を前提とするものであり、この点において韓国語の“-고 있다”とは異なる。また、菅野 1982:62、同 1990:120 には、“-고 있다”の成立はかなり新しいものであって、若い世代の間では現在形よりも多用される傾向にあるのは日本語の影響によるものである旨の記述がみられるのに対し、フランス語においては“être en train de+不定詞”表現よりも現在形を用いた進行表現の方が広く用いられるとされる。さらに、“呢”を用いた(67)のような表現は、「動作が発話時に進行中であることを認める話者の心的態度(ムード)を反映する非アスペクト表現」であるのに対し²⁵⁾、韓国語進行表現における動詞の現在形は、前述したように「テンス」形式であるという相違がみられる。(68)の“prend”は「現在形(直説法現在形)」とよばれるものである。フランス語動詞の「現在形」は「半過去形」とともに時制を反映した動詞の変化形の系列を構成するとされる。ちなみに、フランス語動詞の辞書形(原形)はいわゆる「不定形(不定詞の形)」であり、現在形は主語の人称や数によって変化する。

現在形を用いたフランス語表現は、例えば

(69) Il **prend** un bain.
(彼は風呂に入る／入っている。)
(成戸 2014:381、久松 1999:27)

のように非進行、進行のいずれを表わすことも可能であり、具体的な場面や文脈によっていずれかに確定する。この点においては、中国語の

(67)’ 她洗澡。
(70) 你喝什么酒？(讚井 2000:54)

が「彼女はシャワーを浴びる」、「何を飲みますか」という非進行の意味、(67)’や

(70)’ 你在喝什么酒？(同上)

と同じく進行の意味のいずれを表わす表現としても用いられる現象と同様であり、いずれも進行を表わす働きに特化した表現ではない点において、現在形を用いた韓国語表現との間に共通点を有することとなる。

“呢”を用いた中国語表現、現在形を用いたフランス語表現が進行を表わすのはもっぱら話し言葉においてであり²⁶⁾、この点は韓国語の“-는다(는다)”表現も同様である。このことは、イム・ジョンデ 2004:50 が「動詞の現在継続形のパンマル表現」として

(48) 방에서 지금 축구를 본다.
／部屋で今サッカーを見**テイル**。

を挙げていることや、『標準 韓国語文法辞典(“-는다”の項)』が“-는다(는다)”の働きの一つとして「(会話において、目下の人に対してや友人のように親しい間柄で)現在の行動や事実、習慣などを表す」として(58)などを挙げていることからみてもとれる²⁷⁾。

ところで、韓国語には、進行を表わす形式として“-고 있다”のほか、“-는 중이다”が存在する。『標準 韓国語文法辞典(“-는 중이다”の項)』は、“-는 중이다”は「現在進んでいる動作の状態、あるいはその瞬間を示す傾向が強い」のに対し、“-고 있다”は進行中の動作の他に、「ある動作の結果が続くか、かなり持続的な行為である」ことを表わしたりもするとし、前者が進行を表わすケースとして

(71) 지금 친구를 기다리는 중**이에요**.
／今、友人を待**テイル**トコロ**デス**.
(『標準 韓国語文法辞典』“-는 중이다”の項)

のような「V**テイル**トコロ**ダ**」表現との対応例を挙げている。ついでながら、同形式における「**テイル**」はアスペクト形式、「**トコロダ**」はムード形式であり、前者が表わす進行の意味を後者がさらにとりたてるという関係にある²⁸⁾。同様のケースとしては、『韓国語文法 語尾・助詞辞典(“-는 중이다”の項)』に収

録されている

- (72) 전자레인지에 음식을 데우고 있는
중이에요.

／電子レンジで食べ物を温めテイルトコロ
デス。

(『韓国語文法 語尾・助詞辞典』
“-는 중이다”の項)

が挙げられる。これらの対応例をながめると、
発話時における進行を明示する形式としての性格は、
“-고 있다”よりも“-는 중이다”の方が強いのでは
ないかと考えたくなる。しかしながら、二つの前掲
書が(71)～(72)とともに

- (73) 자료 정리 다 끝났어요?

— 지금 마무리하는 중입니다.

／資料の整理を全て終わらせましたか?

— 今、終えルトコロデス。

(『標準 韓国語文法辞典』“-는 중이다”の
項)

- (74) 친구와 약속이 있어서 시내에 가기는

중이에요.

／友達と約束があって、市内に出かけルトコ
ロデス。

(『韓国語文法 語尾・助詞辞典』“-는 중이다”
の項)

のような、動作を行なおうとしている段階を表わす
「-ルトコロダ」表現と“-는 중이다”表現との対応
例を挙げていることを考え合わせれば、そのように
即断することは避けた方がよさそうである。また、
菅野 1986:69 の記述にみられるように、“중이다”は
“-고 있다”と組み合わせられて“-고 있는 중이다(…
する最中である)”形式を構成することから、“-고
있다”、“-는 중이다”を同一レベルのものとしてあ
つかうことには慎重さが求められよう(両者の関係
は、日本語の「Vテイル」と「トコロダ」のそれを
連想させる)。ちなみに、「-ルトコロダ」との間に対
応関係が成立する韓国語の表現形式としては“-는
중이다”のほかに“-는 길이다”、“-ㄴ(을) 참이다”
がある。イム・ジョンデ 2004 は、同:162 において
“-는 길이다”に「-ルトコロダ」が対応する旨を示
した上で

- (75) 사업차 일본으로 출장가는 길이다.

／仕事で日本に出張に行クトコロダ。

(イム・ジョンデ 2004:162)

- (76) 한국에서 돌아오는 길이에요.

／韓国から帰ってくルトコロデス。(同上)

などを挙げ、“-는 길이다”は「実際行動を起こして
途上にいる時」に、“-는 참이다” (“-ㄴ(을) 참이다”
ではない)は「何かを実行しようとする状態にいる時」
に使われるとする一方、同:163 において“-ㄴ(을)
참이다”は「-ルトコロダ」に対応する旨を示して

- (77) 친구 만나러 나갈 참이다.

／これから友達に会いに出かけルトコロデ
ス。(同:163)

などを挙げ、“-는 참이다”は「-テイルトコロダ」
に対応する旨を示して

- (78) 이제 막 시작하려는 참이에요.

／もうすぐで始めヨウトシテイルトコロデ
ス。(同上)

- (79) 지금 쓰는 참이야.

／今書いテイルトコロダよ。(同上)

を挙げている。(78)の「始めヨウトシテイルトコロ
デス」は「始めルトコロデス」としても意味に大差
はない。これらの記述および対応例からは、“-는
중이다”、“-는 길이다”、“-ㄴ(을) 참이다”の
使い分けが「-テイルトコロダ」、「-ルトコロダ」、「
-ヨウトシテイルトコロダ」のそれとは異なること、
両言語諸形式の対応関係が錯綜していることがみて
とれる。このため、進行表現をめぐる考察において
は、これらの日韓諸形式に“-고 있다”を加えた総
合的な分析を行なうことが必要であり、そうするこ
とによって対照作業の完成度を高めることができよ
う²⁹⁾。

3 意志性と動作性

3.1 韓国語動詞、日本語動詞にみられる意志性

2.1、2.2 で述べたように、韓国語、中国語、フラ
ンス語には進行形式を用いなくて進行を表わす方法
があるのに対し、日本語では進行形式を用いなけれ

ばならない。言うまでもなく、日本語動詞の終止形には「進行」を表わす働きはなく、この点においては韓国語、中国語、フランス語の動詞との間に一線を画している。日本語においては、動詞の終止形は、発話時以後に行なわれる動作を述べるのに用いられることが多く、動作主体が話者あるいは聞き手の場合にはその「意志」を表わすことがある³⁰⁾。これに対し、韓国語動詞の現在形は、発話時にすでに開始している動作を表わすことができ、その動作が発話時に継続中であれば日本語の「Vテイル」が対応することとなる。このことは換言すれば、日本語動詞の終止形とは異なり、韓国語動詞は「～スル」という意味のほかに「～シテイル」という意味を潜在的に含んでいる、すなわち進行の意味を内包しているということであり(この点は2.1で紹介した“살다”についてのイム・ジョンデ 2004:327 の記述とも矛盾しない)、中国語動詞やフランス語動詞(現在形)の場合と同様である³¹⁾。

ところで、イム・ジョンデ 2004:50 が「動詞の現在終止形」の例として挙げているパンマル表現の

- (80) 나 간다. /俺、行くヨ。
(イム・ジョンデ 2004:50)
- (81) 먼저 먹는다. /先に食べるネ。(同上)

は、対応する日本語表現に終助詞「ヨ」、「ネ」が用いられていることからみてもとれるように、現在形を用いて話者(この場合は動作主体でもある)の意志を表わしている³²⁾。このことは、『標準 韓国語文法辞典(“-는다”の項)』が“-는다(는다)”の働きの一つとして挙げている(会話において、目下の人に対してや友人のように親しい間柄で)すでに決まった計画や意志、確実な未来を表す」にも示されている。

韓国語には現在形のほか、動詞に“-겠-”を付加して話し手や聞き手の「意志」を表わす方法があり³³⁾、動詞の終止形を用いた日本語表現との間に対応関係が成立する以下のようなケースがみられる。

- (82) 저는 내일 가겠습니다.
/私は明日行キマス。
(イム・ジョンデ 2004:80)
- (83) 손님, 어느 것으로 하시겠습니까?
— 이것으로 하겠습니다.
/お客さま、どれにナサイマスか?

— これにシマス。

- (『標準 韓国語文法辞典』“-겠-”の項)
- (84) 이것 좀 잡수시겠습니까?
/これちょっと召シ上ガリマスか?(同上)

また、以下の対応例は、現在形を用いた表現の場合と同じく発話時以後に起こることが確実なコトガラを表わしており、このような場合にも以下のように、動詞の終止形を用いた日本語表現との対応関係が成立する。

- (85) 사장님 곧 들어오시겠습니다.
/社長がまもなくオ見エデス。
(イム・ジョンデ 2004:80)
- (86) 곧 이 비행기는 이륙하겠습니다.
/まもなくこの飛行機は離陸シマス。
(同上)

話者の意志を表わす成分としては“-겠-”のほか、話し言葉で用いられる“-게요(을게요)”があり、

- (87) 제가 내일 갈게요.
/私が明日行キマス。(同上)
- (88) 저 미선인데요, 나중에 다시 전화할게요.
/私、ミソンですけど、後でもう一度電話シマス。
(『韓国語文法 語尾・助詞辞典』“-게요”の項)

のような日本語動詞の終止形との対応例がみられる。“-게요(을게요)”は意志性の強さの点で“-겠-”に劣り、主体が一人称である場合に動作動詞に付加されるという特徴がある³⁴⁾。日本語では、(80)、(81)にみられるように、「ヨ」、「ネ」のような終助詞を用いることによって意志を明示することが可能であり、同様の例としては

- (89) 제가 내년에는 꼭 돌아올게요.
/私は来年には必ず帰りますヨ。(同上)
- (90) 그럼 먼저 갈게요.
/では先に帰りますネ。(同上)

のようなケースが挙げられる。『韓国語文法 語尾・助詞辞典(“-게요”の項)』は、「そうすることを相手に約束するときに用いられる」例として(89)を、

「そうすることを相手に知らせるときに用いられる」例として(90)を挙げているが、いずれも話者の意志を表わしている。

“-르게요(을게요)”と同様の働きをする形式としては、“-르게(을게)”がある。両者はいずれも親しい関係にある人の中で用いられるが、『韓国語文法語尾・助詞辞典(“-르게요”、“-르게”の項)』によれば、前者は後者よりも敬意が高く先輩や目上の人に対して用いられ、後者は友だちに対して用いられるとされる。このことから、「ヨ」、「ネ」を用いた日本語表現との対応関係は、

- (91) 극장표는 내가 살게.
 /劇場の切符は私が買うヨ。
 (『新装版 韓国語文法辞典』
 “-(으)르게(요)”の項)
- (92) 다음에는 내가 피자를 만들어 줄게.
 /次は私がピザを作ってあげるからネ。
 (『韓国語文法 語尾・助詞辞典』“-르게”
 の項)

のような“-르게(을게)”表現の方が成立しやすいと考えるのが自然であろう。

ちなみに、“-르게요(을게요)”、“-르게(을게)”を用いた韓国語表現の中には、接続助詞「カラ」を用いた日本語表現が対応する

- (93) 내가 도와드릴게요. 염려 마세요.
 /私がお手伝いしますカラ。心配しないで
 下さい。
 (『新装版 韓国語文法辞典』
 “-(으)르게(요)”の項)
- (94) 이따가 현관에서 기다릴게.
 /後で玄関で待ってるカラ。
 (『韓国語文法 語尾・助詞辞典』“-르게”の
 項)

のようなケースもあり、このような「カラ」の働きは「ヨ」、「ネ」とほぼ同じである³⁵⁾。

3.2 “-고 있다”、“-아/어 있다”と動作・非動作

1.1で紹介したように、“-고 있다”は進行、状態のいずれを表わすのにも用いられるのに対し、“-아/어 있다”は状態を表わすのに用いられ、自動詞と組み合わせられた場合には“-고 있다”が進行を、

“-아/어 있다”が状態を表わすとされる。しかしながら、様々な表現例をみていくと、進行と状態をこのように明確に区別できるのかという疑問がわき起こってくる。

例えば、NHK2004年6月:55には、“자다(寝る)”が“놀다(遊ぶ)”、“웃다(笑う)”と同じく“-고 있다”形式で動作の進行を表わし、状態は表わさない旨の記述がみられるのに対し、日本語の「寝テイマス」の場合は状態を表わすとみてもさしつかえないのではなからうか。

また、浅井2009:117が“-고 있다”形式の「進行形」の例として挙げているケースのうち、他動詞表現の

- (95) 기다리고 있습니다
 /待つテイマス(浅井2009:117)

が表わすコトガラは、目に見える動きこそともなわれないものの、主体の意志によることが明白であって開始と終了が想定されるため、進行とみてさしつかえない³⁶⁾。これに比べると、自動詞表現の

- (96) 살고 있습니다/住んテイマス(同上)
 (97) 자고 있습니다/寝テイマス(同上)

が表わすコトガラの場合、(96)は主体の意志によるもの、(97)は必ずしも主体の意志によるとは限らない(「横になっている」のであれば有意志、無意志のいずれもあり得るが「眠っている」のであれば無意志であろう)ものという相違があるものの、いずれにおいても開始と終了がとりたてて問題とはされないようであり、状態性が強いといえることができる。「寝テイマス」の意志性は、(2) aの「座っテイマス」、(2) bの「立っテイル」のそれに比べても弱いと考えられる。

一方、他動詞表現の

- (98) 붙잡고 있습니다/つかんテイマス(同上)
 (99) 들고 있습니다/手に持つテイマス(同上)

が表わすコトガラは「主体がその意志によって一定の状態を維持している」という性格が強い、すなわち動作性が強いと、動作の持続状態と位置づけるのがふさわしい³⁷⁾。このことは、森田1989:159が

(100) 大きな荷物を持つ**テイル**ので手がくたびれる。(森田 1989:159)

という表現を

(101) 彼はいま勉強をし**テイル**。(同上)

などとともに「意志的な他動行為の継続・進行」を表わす例として挙げていることとも矛盾しない。「動作の持続状態」は、成戸 2009:332-333 において、「V**テイル**」に対応する中国語の「**在V**”、“**V着**”の使い分けについての考察過程で「動作の進行」、「動作結果の持続状態」とともに用いた概念である。「動作の進行」は「時間の流れと直接的な関わりを有し、動作の開始と終了との間に存在する一つの過程であるため、時間的に有限である」という特徴を有するのに対し³⁸⁾、「動作の持続状態」は「動作の開始の結果として生じた一種の状態」であり「動作が開始された後に存在する動作のあり方そのもの」である。また、「動作結果の持続状態」は「動作の終了の結果として生じた不変化あるいは非動の状態」、「動作が終了した後の、動きをともしない静的な結果のあり方」である³⁹⁾。これらの概念によって“-고 있다”の働きをみると、同形式は、動詞が目的語を必要とするものである場合には「動作の進行」、「動作の持続状態」、「動作結果の持続状態」のいずれを表わすことも可能であり、目的語を必要としないものである場合には「動作の進行」、「動作の持続状態」を表わすこととなるのであるが、このような見方は、浅井 2009:117 が(95)~(99)における“動詞の語幹+고 있다”を一括して「進行形」とする見方とは大きく異なっているため、韓国語における「進行」とはいかなる概念であるかということから考え直す必要があるのではなからうか。同様のことは、同:119 が挙げている

(102) **앉아 있어요**

／座**っテイマス** (浅井 2009:119)

(103) **피어 있습니다**

／咲**いテイマス** (同上)

や、(11)~(16)あるいは

(104) **돈이 떨어져 있다**。／お**金**が落**ちテイル**。

(イム・ジョンデ 2004:69)

などの“-아/어 있다”表現が表わす「状態」についてもあてはまりそうである。浅井は「状態を表わす動詞の持続表現」について、「同じ状態が続いていることを表わすときには“-아/어/여 있다”を用います」として(102)、(103)を挙げているのであるが、“-고 있다”形式の(95)~(99)と合わせて日本語の側からながめた場合、韓国語ではいかなる基準によって“-고 있다”、“-아/어 있다”が使い分けられているのか、すなわち、いかなる基準によって「進行」、「状態」が区別されているのかがわかりにくい。このようなわかりにくさは、(2) a、(2) b、(12)あるいは

(105) **흰 의자에 앉아 있어요**。

／白い椅子に座**っテイマス**。

(NHK2005年1月:29)

(106) **멍청히 서 있다**

／ぼんやり(と)立**っテイル**

(『엣센스 韓日辞典』“있다”の項)

が表わすコトガラを、「座る」、「立つ」、「横になる」という動作の結果としての状態とみることも、そのような状態を維持する主体の行為とみることも可能であるという点にも如実にあらわれている⁴⁰⁾。ちなみに森田 1989:158 は、「**-テイル**」の働きの一つとして「作用の結果の現存」を挙げ、瞬間動詞(自動詞)に付加された

(107) 窓が開**いテイル**。(森田 1989:158)

(108) 虫が死**んデイル**から、捨ててください。

(同上)

のようなケースについて「ある作用・行為が完了した瞬間を、時間を無視してとらえた表現」であるとしている。また、浅井前掲書が、有情物の主体(ヒトなど)が想定される(102)と無情物の主体(花)が想定される(103)とをひとまとめにしていることから、浅井のいう「状態を表わす動詞の持続表現」は意志性の有無を問題としないものであることがうかがわれる。このため、韓国語における「状態」とはいかなる概念であるかについても改めて考える必要があるであろう。韓国語の「進行」、「状態」をめぐるこのような疑問は、梅田・村崎 1982 a :51 においては「고 있다と어 있다の区別は日本語の動作の進行を表す『継続動詞+テイル』と動作の結果を表す『瞬

間動詞+テイル』の区別と同じように思われるが、はたしてそうであろうか」という形で示されている。この点について梅田 1982:37 は、日本語の「-テイル」の場合とは異なり、韓国語では動作の過程、結果のいずれが問題となる動詞であるかによって“-고 있다”、“-아/어 있다”が使い分けられるとし、梅田・村崎 1982 a :52-54 は、“-고 있다”、“-아/어 있다”がいかなる動詞と組み合わせられるかについての記述において、前者とのみ組み合わせられる「継続動詞」、後者とのみ組み合わせられる「結果動詞」、いずれとも組み合わせられる「動作進行も動作結果も表し得るような動詞」があるとしている⁴¹⁾。このような動詞の分類は、1.1で紹介した「-テイル」と組み合わせられる日本語動詞の分類、すなわち「継続動詞/瞬間動詞」、「動作動詞/変化動詞」と重なる部分があるものの、まったく同じというわけではない。

『新装版 韓国語文法辞典(“-고 있다”の項)』には、動詞との関わりにおける“-고 있다”、“-아/어 있다”と「-テイル」との相違について考える際のヒントになりそうな記述がみられる。同書は、“-고 있다”が用いられるケースとして(4)~(6)のような「単純な動作の進行を表す場合」のほか、

(109) 부모님은 부산에서 살고 계세요.⁴²⁾
 /両親はプサンに住ん**テイマス**。
 (『新装版 韓国語文法辞典』“-고 있다”の項)

(110) 그는 요즘 즐거운 마음으로 출근하고 있습니다.
 /彼は近頃、楽しい気分で出勤し**テイマス**。
 (同上)

(111) 지난 달부터 외국어를 공부하고 있어요.
 /先月から外国語を勉強し**テイマス**。
 (同上)

のような「持続的な行為を表す場合」や⁴³⁾

(112) 영이는 예쁜 옷을 입고 있다.
 /ヨンイはかわいい服を着**テイル**。(同上)

(113) 어두운데 왜 불을 끄고 있어요?
 /暗いのに、どうして電気を消し**テル**の。
 (同上)

(114) 철수는 지금 한국행 비행기를 타고 있다.
 /チョルスは今韓国行きの飛行機に乗っ**テイル**。(同上)

のような「動作の結果、状態が持続している場合」を挙げている⁴⁴⁾。「持続的な行為を表す場合」とされるケースのうち、(109)の「住ん**テイマス**」は、「断続的に繰り返し行なわれる動作」を表わす(110)の「出勤し**テイマス**」、(111)の「勉強し**テイマス**」とは性格が異なるようである。すなわち、「住ん**テイマス**」は主体の意志によるものである点で進行との間に共通点を有する反面、他者への働きかけをとまなわない点、目に見える動きが問題とされない点では状態との間に共通点を、開始と終了があまり問題とされない点では状態との間に相似点を有するため、両者の中間的な性格を有すると考えられる。同様のことは、「動作の結果、状態が持続している場合」とされる(112)の「着**テイル**」、(113)の「消し**テル**」についてもあてはまる。一方、「住ん**テイマス**」、「着**テイル**」、「消し**テル**」に対応する“살고 계세요(살고 있어요)”, “입고 있다”, “끄고 있어요”のような“-고 있다”表現が表わすコトガラは、この形式で表現されることによって動作の側に属せしめられているとみるのが妥当であろう。この点は、心理動詞を用いた“알고 있다(知っている)”の場合も同様であると考えられ⁴⁵⁾、イム・ジョンデ 2004:69 は

(115) 저는 알고 있습니다.
 /私は知っ**テイマス**。
 (イム・ジョンデ 2004:69)

などについて「動き・状況 ⇒ 精神的なものも含む」と示し、『小学館 日韓辞典(「いる【居る】」の項)』は

(116) 그에 대해서는 어릴 때부터 잘 알고 있다.
 /彼のことは子どものころからよく知っ**テイル**。
 (『小学館 日韓辞典』「いる【居る】」の項)

について「進行・継続の『…している』」と示している。これに対し、森田 1989:159 が、状態を表わす動詞に「-テイル」が付加されて「現在の状態」を表わす例として

(117) この道は曲が**テイル**(森田 1989:159)

(118) 全くばかげ**テイル**よ(同上)

などととも

(『東京外国語大学言語モジュール 朝鮮語
文法モジュール』)

(119) そんなことは分かつ**テイル**よ(同上)

を挙げていることから、「分かつ**テイル**」のような心理動詞の「-**テイル**」形が形容詞的な性格を強く帯びていること、すなわち非動作としての性格が強いとみられていることがわかる。“-고 있다”表現が表わすコトガラが動作の側に属することは、梅田・村崎 1982 a : 51-52 が“-고 있다”の働きについて「動作の進行または反復進行を表す、動作の過程を問題にして、動作に時間的幅を持たせて言う表現である」としていることや、同: 53-54 が“-고 있다”は付くが“-어 있다”は付かない動詞を「継続動詞あるいは時間的幅を持ちうる動詞」としていること、さらには菅野 1986: 69 が

(120) 그는 등이 굽어 있다.

(彼は背が曲がっている。)(菅野 1986: 69)

のような“-아/어 있다”表現について「本来そなわった性質(動作を前提としない)をあらわすこともある」としていることから明白である。状態を表わすとされる“-고 있다”の用法もこのような働きの延長線上にあり、1.2 で述べたように同じく「状態」を表わすとはいっても“-아/어 있다”との間に用法上の断絶が存在することを考え合わせれば、純然たる「状態」とは異なった、動作の具体的ありようとしての「静態」とみるのが妥当であろう。でなければ、『韓国語文法 語尾・助詞辞典(“-고 있다”の項)』における“-고 있다”の表わす状態についての「ある動作をした結果がそのまま持続することを表わす」という記述や⁴⁶⁾、『新装版 韓国語文法辞典(“-고 있다”の項)』が、「動作の結果、状態が持続している場合」における“-고 있다”、“-아/어 있다”の意味はほぼ同じであるが、前者は「動作をした後の状態がそのまま持続していること」を表わすとしているなどの記述の意味が理解できないし、(24)あるいは『東京外国語大学言語モジュール 朝鮮語 文法モジュール』が「語彙によっては進行中の動作と、その動作を行った結果が継続している状態を表すものもあります」として挙げている

(121) 형은 청바지를 입고 있습니다.

／兄はジーンズをはいて**テイマス**。

のようなケースが存在することの説明もつかないの
である。同書は、このようなケースに用いられる動
詞について「着用を表す動詞が多い」とした上で、
“입다/着る、(ズボンやスカートを)はく”、“신다/
(靴を)はく”、“쓰다/(帽子を)かぶる、(メガネを)
かける”、“끼다/(手袋や指輪を)はめる、(メガネを)
かける”、“매다/(ネクタイを)しめる”のような身
につけ動詞のほか、“안다/抱く”、“들다/(手に)持
つ”、“가지다/持つ、所有する”、“타다/乗る”を
挙げている⁴⁷⁾。この点は『韓国語文法 語尾・助詞辞
典(“-고 있다”の項)』も同様であり、「ある動作を
した結果がそのまま持続することを表わす」場合の
“-고 있다”について、「“입다(着る)”、“쓰다(かぶ
る)”、“들다(持つ)”等の動詞と共に用いられる」と
している。これらの動詞のうち、“안다”、“들다”は、
“-고 있다”と組み合わせられて「主体がその意志によ
って一定の状態を維持させている」ことを表わすた
め、身につけ動詞の場合よりも動作動詞としての性
格が強いということができよう⁴⁸⁾。これに対し、
“입다”をはじめとする「身につけ動詞」は、動作が
主体自身におよぶという意味上の特徴から、自動詞
に近い性格をもつ「再帰動詞」と位置づけられる⁴⁹⁾。
「身につけ動詞」を用いた“-고 있다”表現は進行、
状態のいずれを表わすことも可能であり、このこと
は、生越 1995: 189 の「… “입다(着る)”のように、
再帰性を持つ一部の他動詞では、(“-고 있다”形式
で)変化の結果状態を表すこともある」という記述に
示されている。

ところで、中国語には、「動作の進行」を表わす形
式として 2.2 でとり上げた“在V”が、「動作結果の
持続状態」を表わす形式として“V着”があり、そ
れぞれ

(122) 他在看书。

／彼は本を**読んで**テイ。 (成戸 2009: 296)

(123) 他穿着毛衣。

／彼はセーターを**着**テイ。 (同: 338)

のように用いられる。“V着”はさらに、

(124) 他拿着书。

／彼は本を(手に)持**つ**テイ。 (同上)

のような「動作の持続状態」を表わす表現に用いることも可能であるが、両者の間には連続性がある⁵⁰⁾。これらのことから、日本語の「Vテイル」が「動作の進行」、「動作の持続状態」、「動作結果の持続状態」のいずれを表わすことも可能であるのに比べ、中国語の“在V”、“V着”の働きは限定的であることがみてとれる。これらの点をふまえて韓国語の“-고 있다”、“-아/어 있다”の働きと比較してみると、「動作の進行」を表わす働きに限定される“在V”によって表わされるコトガラの範囲は、「動詞の語幹+고 있다」のそれに比べると限定的であり、“V着”、“動詞の語幹+아/어 있다”は「動作の持続状態」、「動作結果の持続状態」を表わす点で共通する反面、Vが他動詞、自動詞のいずれであるかにかかわらず用いられる前者によって表わされるコトガラの範囲は、後者よりも広いこととなる。

4 おわりに

以上、“-고 있다”、“-아/어 있다”、“-는다(는다)”を用いた韓国語表現、「Vテイル」を用いた日本語表現を主たる考察対象とし、“在V”、“V着”、“呢”を用いた中国語表現、“être en train de+不定詞”、動詞の現在形を用いたフランス語表現などとの比較も行ないながら、進行、状態に関わる日韓諸形式の働きを明らかにするための着眼点、分析方法、予測される結論などについて考察を行なった。「進行」、「状態」は言語の枠を越えた普遍的概念であると思われるがちであるが、どのようなコトガラを「進行」、「状態」として(or「動作の進行」、「動作の持続状態」、「動作結果の持続状態」として)表現するかは言語によって異なり、それぞれの言語に固有の形式によって表現し分けられている。このことは、そもそも「進行」、「状態」をどのように規定するかが言語によって異なることに起因しており、言語によって動詞の性格が異なることとも深く関わっている。

言語の対照研究を行なうにあたっては、対照させる意味のあるテーマを選定することが重要であり、本稿でとり上げた「進行」、「状態」もそれに該当する。対照研究においてとり上げる価値のあるテーマは、教育の上でも重要なポイントとなり、日本語話者が韓国語を学ぶ場合、韓国語話者が日本語を学ぶ場合には、両言語の対照研究から得られた知見が大いに役立つ。しかしながら、井上・木村・生越 2002:131-134 が日本語、中国語、朝鮮語の研究につ

いて

- ・現代語についていえば、日本国内の3つの言語研究の関係は限りなく「縦割り」に近い状態にある
- ・3つの言語研究がそれぞれ独自の伝統や問題意識を有し、各言語の枠内でのみ研究が進められていることが多い
- ・個別言語研究の枠内での研究の蓄積がそのまま「言語」に関する知見の蓄積につながるわけではないということが十分に認識されていない
- ・(例えば、テンス・アスペクトに関する)基本概念一つとってみても、必ずしも共通の理解のもとで用いられているわけではない
- ・個別言語研究の枠内で研究が進むほど、議論や記述がその内部だけで完結したものになり、それらが持つ一般言語学的な意義は逆に見えにくくなる可能性がある

と指摘していることからみてもとれるように⁵¹⁾、個別言語の枠を越えた広い視野からの観察・分析を行なわなければ、よりよい研究成果、教育成果につながらないのもまた事実である。本稿でとり上げた「進行」、「状態」に限らず、日本語、韓国語、中国語、フランス語の文法に関する研究成果の蓄積はすでに膨大であるが、上記のような現実をふまえれば、対照研究の観点から新たな知見を得て、それらを教育に反映させる余地は大いにあると言えよう。

注

- 1) 反復して行なわれる動作、習慣として行なわれる動作は、「-テイル」の用法について述べた近藤 2008:69-70 が「断続的に継続する一連の出来事」としているものに該当する。この点については、さらに成戸 2014:395 を参照。
- 2) (11)の“지쳐 있다”と同様に「疲れている」を表わす“피곤하다”は形容詞であるため、“-아/어 있다”の形にはならない。この点についてはNHK2004年6月:55を参照。
- 3) 「Vテイル」が表わす「進行」、「状態」は、『日本語 基本動詞用法辞典(「いる 居る」の項)』の記述では「主体が動作・活動の最中である」、「主体がある状態にある」、「行為・作用の結果としての状態が主体に残っている」となっている。成戸 2009:262, 305 では他動詞表現が表わす「進行」、「状態」について述べた。
- 4) 「継続動詞/瞬間動詞」および「動作動詞/変化動詞」については、さらに文化庁 1975:134-135、國廣 1982:15-16、近藤 2008:67-69、石賢敬 2014:64、『日本語文法事典(「動

- 作動詞と変化動詞」の項』などを参照。
- 5) これらの点については前田 1982:68-69、水谷 1985:96-97、成戸 2009:304-307、309-310、山田 2009:66-67 を参照。
- 6) 『엷센스 韓日辞典(“있다”の項)』は“-고 있다”について「ある動作を続けている意を表わす」、“-아/어 있다”について「ある状態が続けられている意を表わす」と示している。
- 7) これらの点については、イム・ジョンデ 2004:69-71、浅井 2009:116-120、石賢敬 2014:65 のほか、『韓国語文法 語尾・助詞辞典(“-고 있다”、“-아/어 있다”の項)』、『新装版 韓国語文法辞典(“-고 있다”、“-어/아/여 있다”の項)』を参照。
- 8) 成戸 2020:191 で述べたように、“~를(을) 타다”は「~に乗る ⇒ ~を利用する」という抽象的な意味合いで用いられるようであり、このことは梅田 1982:37 が、“타다”は「乗る」とは異なって「何かに乗って移動する」を表わすとしていることとも符合する。
- 9) この点については、フランス語動詞表現において場所、道具を表わす“dans・N”、“avec・N”の使い分けについて考察を行なった成戸 2014:362-364、可能形式“savoir/pouvoir+不定詞”の使い分けについて考察を行なった同 2019:103-109 を参照。
- 10) 「他動性(transitivity)」およびその高低を決定する意味特徴については、存在表現の日中対照を行なった成戸 2009:263-265 を参照。
- 11) 同書が“타다”は通常“를”を用いるが、“에”を用いると、乗った位置がそのバスの中であることを強調する」としていることは、“버스에 타다”における“버스”と“타다”が「トコロ(空間) — 動作」の関係(or それに近い関係)にある点で、「客体 — 動作」の関係にある“버스를 타다”の場合とは異なることを意味すると考えられる。このような“에”の特徴については、成戸 2020:190-191 でもふれた。ちなみに、日本語の「Vテイル」の場合には、これと組み合わせられる名詞が「で」格、「に」格、「を」格のいずれであるかが「-テイル」の働きに影響する(本稿の例で言えば、「に」格を用いた(2) a、(2) b、(12)、「で」格を用いた(21)’がこれに該当する)。この点については、中右 1980:112-113、成戸 2009:304-307 を参照。
- 12) この点については、さらにイム・ジョンデ 2004:326-327 を参照。同様の記述が石賢敬 2014:65 にもみられる。
- 13) 進行を表わす「-テイル」は「-ツツアル」と置き換えられるが、後者は非継続動詞と組み合わせられて進行を表わすことができる。この点については鈴木 1972:390、金田一 1976 a :56、成戸 2014:398 を参照。
- 14) これらの点については、梅田・村崎 1982 a :53-54 を参照。(33) a、(33) b に用いられている“시들다(しおれる)”は“피다”の反義語とみることができるものの、“-고 있다”、“-아/어 있다”のいずれとも組み合わせられる。
- 15) 文化庁 1975:134 は「~シテイル」の働きについて、英語の“be~ing”のそれと同様に「現在進行中の動作・出来事を表わす」と説明することの問題点に言及している。ちなみに、(43)に相当するフランス語表現は“**Il/Elle est en train de venir.** (青木 1987:26 を一部修正)”であり、フランス語においても非継続動詞が進行形式と組み合わせることがみてとれる。
- 16) “어 있다”は“하다”動詞の語幹に続く形である。この点については『標準 韓国語文法辞典(“-아”、“-아 있다”の項)』を参照。
- 17) 『新装版 韓国語文法辞典』:6 および“-고 있다”の項、『東京外国語大学言語モジュール 朝鮮語 文法モジュール』にも同様の記述がみられる。安平鎬 2000:240 には、動作の進行を表わす典型的な形式は動詞の現在形である旨の記述がみられる。
- 18) 『東京外国語大学言語モジュール 朝鮮語 文法モジュール』は、「動作が進行中であることがテキストを通じて聞き手に明らかな場合は、動詞の現在形も進行を表し、『~している』と解釈されます」として“지금 무엇을 **합니까?** — 한국어를 공부**해요.** (今何をシテイマスか。 — 韓国語を勉強シテイマス。)”を挙げている。この点については、さらにイム・ジョンデ 2004:326、NHK2005年1月:29 を参照。“해요”体も現在形で動作の進行を表わす方法の一つである。
- 19) このようなケースにおける「-テイル」の働きについては、森田 1989:160 を参照。
- 20) 『標準 韓国語文法辞典(“-는다”の項)』は“-는다”の働きを「(動詞に付いて)主に、現在の実事や行為を表しながら文を締めくくる語尾」と規定し、梅田・村崎 1982 b :163 は丁寧形を構成する“-니다(습니다)”を、現在形を構成する“-다(는다)”とともに「陳述形語尾」として示している。“해요”体については、『新装版 韓国語文法辞典』:43 および同書“-어/아/여요(해요体)”の項が「非格式体の敬語で、非格式体パンマル“-어/아/여”に終結語尾“-요”を付けたものである」、「動詞と結合し、文の終わりを結ぶ非格式体の尊敬形終結語尾である」としている。
- 21) 『日本語 基本動詞用法辞典(「**ある** 在る・有る」、「**いる** 居る」の項)』は「-テイル」を補助動詞、「-ツツアル」を形式的動詞と規定している。
- 22) “-고 있다”については菅野 1990:119-120 を、「在V”、“être en train de+不定詞”については成戸 2009:296-297、同 2014:387-389 を参照。
- 23) “在V”、“être en train de+不定詞”については、成戸 2014:399-404 を参照。
- 24) 成戸 2009:303-304、同 2014:382-383 を参照。
- 25) 成戸 2014:382-384 を参照。同:402-403 では進行をとりたてる“在V”、持続をとりたてる“V着”のムード性にも言及した。
- 26) 陳淑梅 1997:30-32、久松 2011:155 を参照。
- 27) 『韓国語文法 語尾・助詞辞典(“-는다”の項)』は、“-다(는다)”は話し言葉において「ある行為を現在形で述べることを表わす」として“엄마, 뭐 하세요? — 밥 **먹는다.** (お母さん、何してるの? — ご飯食べてるのよ。)”を挙げ、書き言葉において「ある事柄を中立的に述べることを表わす」として“학생들이 책을 많이 **읽는다.** (学生たちは本をたくさん読む。)”、“봄에 뿌린 씨앗은 가을에 열매를 **맺는다.** (春にまいた種は秋に実を結ぶ。)”などを挙げている。
- 28) 成戸 2014:400-402 を参照。厳密には「**トコロダ**」もアスベクトに関わる働きをすることがあり、進行、状態のいずれを表わすことも可能な「Vテイル」表現の意味を進行に

- 限定する。「Vテイルトコロダ」については、さらに同:325を参照。また、「瞬間を示す傾向が強い」という“-는 중이다”の特徴は、中国語の「正在V」形式においてコトガラを「ある一時点に位置する動作」として表現する“正”の特徴に通じるものがある。この点については同 2009:302-303、同 2014:403-404 を参照。
- 29) 「-テイルトコロダ」、「-ルトコロダ」については、近藤 2008:72 を参照。成戸 2014:395-399、402 では、これらの形式を用いた表現と “être en train de+不定詞” 表現との対応関係について述べた。「개미 떼가 나무 위로 줄을 지어 올라가고 있었다. / 蟻の群れが木の上の方へと列をなし、登って行くトコロダッタ。(『韓国語文法 語尾・助詞辞典』“-어?” の項)」のような“-고 있다”と「-ルトコロダ」の対応関係にも目配りが必要である。
- 30) これらの点については、文化庁 1975:129-130、金田一 1976 b:12、梅田・村崎 1982 a:44、國廣 1982:15-16、近藤 2008:62、石賢敬 2014:60、成戸 2014:384-385、『日本語文法事典(「動詞¹」、「動詞²」の項)』などを参照。
- 31) 中国語動詞、フランス語動詞(現在形)については、成戸 2009:299-300、同 2014:326、384-385、397 を参照。
- 32) 『新版 日本語教育事典(「助詞」の項)』には、「ヨ」、「ネ」のような終助詞が「話し手の主観的な態度」を示し、モダリティの機能を有する旨の記述がみられる。「ヨ」、「ネ」をはじめとする終助詞の働きについては、さらに近藤 2008:123-128 を参照。『日本語文法事典(「助詞¹」、「助詞²」の項)』は、助詞の働きの一つとして「言語主体の心的態度に関わる意味」を表わすことを挙げ、終助詞のタイプの一つとして「梅の花が咲いたヨ」のように「文の伝達に際しての話し手の情意や意向を付け加える働きをするもの」があるとしている。現在形を用いた韓国語表現との対応例としては、「야, 저기 아빠 오신다. / ねえ、むこうからお父さんが来るヨ。(『韓国語文法 語尾・助詞辞典』“-는다!” の項)」が挙げられる。
- 33) “-겠-”の働きについては梅田・村崎 1982 a:47-49、同 1982 b:166-167、石賢敬 2014:62-63、『韓国語文法 語尾・助詞辞典(“-겠-”の項)』、『標準 韓国語文法辞典(“-겠-”の項)』を参照。梅田・村崎 1982 a、同 1982 b によれば、動作主体が一人称以外の場合に“-겠-”を用いると「推量」を表わすことができる(但し疑問文では相手の意志を聞くこととなる)。
- 34) これらの点については、イム・ジョンデ 2004:80、『韓国語文法 語尾・助詞辞典(“-게요”の項)』、『新装版 韓国語文法辞典(“(으)게(요)”の項)』、『標準 韓国語文法辞典(“-을게”の項)』などを参照。
- 35) NHK2004年7月:62 は、これらのケースにみられるような“-게요(을게요)”の用法を「約束法」と規定している。接続助詞「カラ」の用法については森田 1989:347-348 を参照。
- 36) 石賢敬 2014:64 は “친구를 기다리고 있어요. / 友達ヲ待つテイマス。”について、「友人を待つ」行為の進行を表わすとしている。
- 37) 同様の例としては “마이크를 쥐고 있습니다(있어요). / 마이크を握っテイマス。(NHK2004年6月:53、74)” が挙げられる。
- 38) 成戸 2014:380 では、中仏日3言語の進行表現を対照させ
- るにあたり、「動作が開始から終了にいたる過程において継続中である段階」を指す用語として「進行」を用いた。
- 39) 「動作の進行」、「動作の持続状態」、「動作結果の持続状態」については、成戸 2014:392-394 でも述べた。NHK2004年6月:53、55 における“-고 있다”の「進行」および「状態」、「-아/어 있다」の「状態」についての説明と比較されたい。
- 40) 「Vテイル」に着目すれば、(105)においては「椅子」を修飾する「白い」によって「座っテイマス」が状態の意味に、(106)においては主体の様子を述べる「ぼんやり(と)」によって「立っテイル」が動作の意味に傾いているとみることが可能であろう。同様のことが(21)'、(21)"についてもあてはまる。このような見方については、成戸 2009:305-307 を参照。『標準 韓国語文法辞典』は“-고?”の項において、“택시를 타고 가자.(タクシーに乗っていこう。)”は「タクシーに乗った状態を維持しながら行こう。」を表わすとしている。同書“-아?”の項に挙げられている“철수가 의자에 바로 앉아 책을 보고 있다.(チョルスが椅子にきちんと座って、本を読んでいる。)”における“앉다(座る)”が“보다(読む)”と並行する動作として表現されているのに比べると、“그는 벌써 산 정상에 앉아 있어.(彼はすでに山の頂上に座っている。)”における“앉다”は状態性が強いのではなからうか。
- 41) 但し、梅田・村崎 1982 a:54、梅田 1982:38 は、この分類はそれほど厳密なものではないとする。NHK2004年6月:57 は、動作の終了後を表わすアスペクト形式をもつ動詞(“가다”、“앉다”、“타다”など)を「限界動詞」、そうでない動詞(“놀다”、“먹다”など)を「非限界動詞」としている。“-고 있다”、“-아/어 있다”との組み合わせの可否にもとづく動詞の分類については、さらに生越 1995:189-190 を参照。
- 42) “-고 있다”、“-아/어 있다”の敬語体は“-고 계시다”“-아/어 계시다”であり、動作主体に対する敬意を表わす場合には、“할머니는 뭘 하고 계시요? / お婆さんは何をしテイラッシュアルのですか。(『新装版 韓国語文法辞典』“-고 있다”の項)、“할아버지는 지금 부산에 가 계시요. / 祖父は今、釜山に行っテオラレマス。(『標準 韓国語文法事典』“-아 있다”の項)”のようになる。
- 43) 成戸 2014:395 では、「動作・現象が始まって、終わらずに今存在している」ことを表わすという「-テイル」の特徴が、習慣的な動作を表わすケースについてもあてはまるとした。このようなタイプの“-고 있다/-テイル”形は、“그는 키가 크며 상사회사에 근무하고 있고 스포츠를 잘 합니다. / 彼は背が高く、商事会社に勤めテイテ、スポーツが得意です。(生越 1987:100)”にみられるように、形容詞に近い性格を帯びることがある。ちなみに、『小学館 日韓辞典(「いる【居る】」の項)』が「進行・継続の『…している』」を表わす例として挙げている“그는 패밀리 레스토랑의 지배인을 하고 있다. / 彼はファミレスの店長をしテイイル。”における「店長をしテイイル」は「店長デアル」と同義であり、非動作的性格が強い。
- 44) 同様の記述が石賢敬 2014:64-65 にもみられ、“-고 있다”の働きを「動作の進行」、「動作の反復進行」、「動作の進

行および結果状態」に分けている。注 40 に示した(105)の場合と同じく、(112)は客体を修飾する“예쁜(かわいい)”を含んでいるため描写性が高く、状態の意味に傾いていると考えられる。同様のことは、同:65 が挙げている“예쁜 옷을 입고 있어요. (綺麗な服を着ています。)”についてもあてはまる(同書は、「服を着ている」という進行の意味のほかに、「服を着る」行為が完了し、その結果の状態についての意味もあるとしている)。生越 1995:192-193 が“오늘 다나카 씨는 빨간 드레스를 입고 있습니다. (今日田中さんは赤いドレスを着ています。)”について「変化の結果状態が現在目の前にあるときの表現である」としているのは、描写性の高い表現であることを意味すると考えられ、状態表現としての性格が鮮明となっている。

- 45) 前田 1982:69、72-73、75-76 の記述によれば、“알다”は“-고 있다”と組み合わせられて進行を表わすが“-아/어 있다”と組み合わせられて状態を表わすことはないのに対し、「知る」は「……している」と組み合わせられて状態を表わすが進行を表わすことはなく、「知りツツアル」は外国語翻訳調の堅い表現であるということとなる。
- 46) 同書はまた、“타다(乗る)”を用いた表現を例とした“-고 있다”の説明において、「ある動作を完了した後の状態がそのまま持続すること」を表わすとしている。
- 47) NHK2004 年 6 月:57、75 は、“화장을 하고 있어요 (化粧をしている)”、“한복을 입고 있어요 (韓服を着ている)”、“코트를 벗고 있어요 (コートを脱いでいる)”を、梅田・村崎 1982 a :53 は、「“고 있다”は付くが“어 있다”は付かない動詞」として“입다(着る)”、“벗다(脱ぐ)”、“쓰다(かぶる)”、“타다(乗る)”などを挙げている。
- 48) 成戸 2009:338-339 では、中国語の“主体+V着+客体”表現である“他拿着书。(彼は本を(手に)持っている。)”、“他穿着毛衣。(彼はセーターを着ている。)”について同様の見方をとった。
- 49) 日本語の「再帰動詞」については『現代日本語文法②』:295-298、『日本語文法事典(「再帰性」の項)』を参照。
- 50) 成戸 2009:338-340、同 2014:393-394 では、“主体+V着+客体”表現にみられる“V着”の働きの連続性についてふれた。
- 51) これらの点については、さらに井上 2001:155 を参照。

参考文献

- 青木三郎 1987. 「現代仏語のAspect・Tense・Modality — être en train de+infinitif と現在形について —」, 『フランス語学研究会』第 21 号, 日本フランス語学研究会, 20-35 頁。
- 浅井伸彦 2009. 『これ一冊で! 基礎を固める 快速マスター韓国語』, 語研。
- 安平鎬 2000. 「結果相を表す表現と空間表現との共起関係 — 日韓対照を中心に —」, 青木三郎・竹沢幸一編『空間表現と文法』, くろしお出版, 215-247 頁。
- 井上優 2001. 「現代日本語の『タ』 — 主文末の『…タ』の意味について —」, つくば言語文化フォーラム編『「た」の言語学』, ひつじ書房, 97-159 頁。
- 井上優・木村英樹・生越直樹 2002. 「日本語/中国語/朝鮮

- 語研究と『対照研究』, 『日本語と外国語との対照研究 X 対照研究と日本語教育』, 国立国語研究所(くろしお出版), 131-140 頁。
- イム・ジョンデ 2004. 『初級から上級まで学べる 完全マスターハンゲル文法』, DHC(2 版 2014)。
- 梅田博之 1982. 「韓国語と日本語 — 対照研究の問題点」, 『日本語教育』第 48 号, 日本語教育学会, 31-42 頁。
- 梅田博之・村崎恭子 1982 a. 「現代朝鮮語」, 森岡健二・宮地裕・寺村秀夫・川端善明編集『講座 日本語学 11 外国語との対照 II』, 明治書院(再版 1984), 40-60 頁。
- 梅田博之・村崎恭子 1982 b. 「現代朝鮮語」, 森岡健二・宮地裕・寺村秀夫・川端善明編集『講座 日本語学 11 外国語との対照 II』, 明治書院(再版 1984), 161-177 頁。
- 『NHK ラジオ 안녕하십니까? ハンゲル講座』2004 年 6/7 月号・2005 年 1 月号, 日本放送出版協会。
- 生越直樹 1987. 「日本語の接続助詞『て』と朝鮮語の連結語尾 {a} {ko}」, 『日本語教育』第 62 号, 日本語教育学会, 91-104 頁。
- 生越直樹 1995. 「朝鮮語 ㄷ 多形, 해 있다 多形(하고 있다 多形)と日本語 シタ形, シテイル形」, 『国立国語研究所報告 110 研究報告集 16』, 国立国語研究所(秀英出版), 185-206 頁。
- 韓国・国立国語院著『標準 韓国語文法辞典』, アルク(2012)。
- 菅野裕臣 1986. 「朝鮮語のテンスとアスペクト」, 『学習院大学言語共同研究所紀要』第 9 号, 学習院大学言語共同研究所, 60-70 頁。
- 菅野裕臣 1990. 「アスペクト — 朝鮮語と日本語 —」, 『国文学 解釈と鑑賞』1990 年 1 月号, 至文堂, 117-122 頁。
- 金京愛・鄭賢珠 2015. 「韓国文化への招待 — ことばの日韓比較」, 田口紀子編『大学からの外国語 多文化世界を生きるための複言語学習』, 京都大学学術出版会, 71-90 頁。
- 金田一春彦 1976 a. 「日本語動詞のテンスとアスペクト」, 金田一春彦編『日本語動詞のアスペクト』, むぎ書房, 27-61 頁。(原著は金田一春彦 1954)
- 金田一春彦 1976 b. 「国語動詞の一分類」, 金田一春彦編『日本語動詞のアスペクト』, むぎ書房, 5-26 頁。(原著は金田一春彦 1947)
- 國廣哲彌 1982. 「日本語・英語」, 森岡健二・宮地裕・寺村秀夫・川端善明編集『講座 日本語学 11 外国語との対照 II』, 明治書院(再版 1984), 2-18 頁。
- 小泉保・船城道雄・本田晶治・仁田義雄・塚本秀樹編『日本語 基本動詞用法辞典』, 大修館書店(1989)。
- 近藤安月子 2008. 『日本語教師を目指す人のための 日本語学入門』, 研究社。
- 讚井唯允 2000. 「“在等”“等着”“在等着” — “在”と“着”の文法的意味と語用論」, 『人文学報』第 311 号, 東京都立大学人文学部, 53-73 頁。
- 鈴木重幸 1972. 『日本語文法・形態論』, むぎ書房。
- 石賢敬 2014. 「テンスとアスペクト」, 沖森卓也・曹喜澈編著『日本語ライブラリー 韓国語と日本語』, 朝倉書店, 59-66 頁。
- 陳淑梅 1997. 「『～テイル』の中国語訳についての一考察」, 『慶應義塾大学日吉紀要 言語・文化コミュニケーション』第 19 号, 慶應義塾大学, 23-33 頁。
- 『東京外国語大学言語モジュール 朝鮮語 文法モジュール』, 東京外国語大学(2015)。

- 藤堂明保・相原茂 1985. 『新訂 中国語概論』, 大修館書店。
- 成戸浩嗣 2009. 『トコロ(空間)表現をめぐる日中対照研究』, 好文出版。
- 成戸浩嗣 2014. 『日中・日仏対照研究』, 好文出版。
- 成戸浩嗣 2019. 「フランス語の可能表現をめぐる対照研究方法論 — “savoir/pouvoir+不定詞” と中国語・日本語の可能表現(下) — 」, 『愛知学泉大学紀要』第2巻第1号, 103-116頁。
- 成戸浩嗣 2020. 「外国語学習と社会人基礎力 — 韓国語・日本語の視点から — 」, 『愛知学泉大学紀要』第2巻第2号, 愛知学泉大学, 177-196頁。
- 日本語記述文法研究会編『現代日本語文法② 第3部 格と構文 第4部 ヴォイス』, くろしお出版(2009)。
- 日本語教育学会編『新版 日本語教育事典』 大修館書店(2005)。
- 日本語文法学会編『日本語文法事典』, 大修館書店(2014)。
- 久松健一 1999. 『英語がわかればフランス語はできる!』, 駿河台出版社。
- 久松健一 2011. 『ケータイ〔万能〕フランス語文法 実践講義ノート』, 駿河台出版社。
- 藤田裕二・清藤多加子 2002. 『英語もフランス語も 比較で学ぶ会話と文法』, 評論社。
- 文化庁 1975. 『国語シリーズ 別冊2 日本語と日本語教育(文法編)』。
- 白峰子(ペク・ボンジャ)著/大井秀明訳『新装版 韓国語文法辞典』, 三修社(2019)。
- 前田綱紀 1982. 「『……している, ……してある』の日本語朝鮮語対照」, 『日本語教育』第48号, 日本語教育学会, 66-76頁。
- 水谷信子 1985. 『日英比較 話しことばの文法』, くろしお出版。
- 森田良行 1989. 『基礎日本語辞典』, 角川書店(10版 2005)。
- 安田吉実・孫洛範・箕輪吉次・李淑子編著『옛센스 韓日辞典』, 民衆書林(2006)。
- 山田敏弘 2009. 『日本語のしくみ』, 白水社。
- 油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎編『小学館 日韓辞典』, 小学館(2008)。
- 李姫子・李鐘禧著/五十嵐孔一・申悠琳訳『韓国語文法 語尾・助詞辞典』, スリーエーネットワーク(2010)。

(原稿受理年月日 2020年9月13日)